

「番町」開発に住民反発

参考人招致で意見聴取

千代田区内の高級住宅街で知られる「番町」の再開発を巡って住民の反発が強まっている。区が作成中の

の地区計画では建築物の高さは最大60層に抑えられている。

「日本テレビ通り沿道まちづくり基本構想」の素案で一時、地区計画による高さ制限を緩和する方針を示したことで、沿道で民間企業が計画している超高層商業ビルを建設する計画が可能となるためだ。これに対し、一部住民が住環境が悪化するとして区議会に構想の再考を求める陳情を提出。区議会は陳情を6月27日に受理し、10日に開いた企画総務委員会で参考人招致を行った。

区は地元住民から民間の超高層ビル開発を盛り込んだ日本テレビ通り沿道のまちづくり方針の提案を受け、今年3月に沿道の町会や法人関係者で構成する協議会を設立。閑静な住環境の保全とにきわ

い創出を掲げた基本構想を作成している。7月に示した基本構想素案には、再開発予定地の高さは制限緩和を打ち出しているが、住民の反発を受けて、9月に示した素案では削除している。

【解説】 6月の陳情提出以降、その趣旨に同意する署名の数は増加

し、10日時点で1542人に上っている。同日に傍聴に訪れた住民は「番町には閑静な住環境という『ブランド』がある。高層マンションが建つようになつてはブランドの価値が低くなる」と懸念を示した。反発の根底には、大規模開発によって新住人や来訪者が増え、静かな住環境が阻害されるのではとの不安がある。

また、参考人からは「新住民には町会加入を促進できず、地域コミュニティが分断される」と懸念する意見があがった。23区への人口流入が続く中、他区にとって今回求められている。(伊)

千代田区議会

14日改選

「番町」には歴史があり、レ通りは、靖国通りが都庁の中心でも静かな街。番町全体のプラに結ぶ延長770層の区ドを確立する再開発と道。沿道には学校施設やしてほしい。10日の大使館が並ぶ。この一帯同区議会企画総務委に招は「番町」の名で知られ、致された参考人は、再開江戸時代には武家屋敷が軒を連ね、明治以降は高

日本テレビ通り(日デ級住宅街)となった。現行

10日に実施された参考人招致=10日、千代田区議会で



10日に実施された参考人招致=10日、千代田区議会で

新旧住民の融和を

「からは、「地域には歩行空間や広場の確保、パリアフリー化などの課題がある。高さ制限の変更はやむを得ない」などと地域の課題を解決すると、再開発を評価する意見があがった。

区議会は同日に双方の意見を聴取したとして、陳情審査を終了としたが、委員からは「新旧住民や子育て世代など、様々な区民の考えを吸い上げる必要がある」との意見があがった。

1970年代に始まった埋め立て地の開発によって新住民が増えた江戸川区清洲町・臨海町では、区がマンションに対して活動の主体となる自治会の設置を求め、区は運営や財政面から支援してきた。自治会による地域の祭りは今も約30年にわたって続いており、地域コミュニティの維持に役買しているという。

区地域まちづくり課は当初の構想策定スケジュールを延期し、「住民からの意見を聞いて、今後のスケジュールを組み直す」と話す。住民の不安を解消し、地域の発展を描くための議論に導くことが求められている。(伊)